

パソコンが活躍するまちづくり

趣味や仕事の情報をインターネットで調べたり、家族や友人などと写真やメッセージなどを瞬時にやりとりしたり、学業のレポートや年賀状を作成したりと、パソコンは私たちの日常生活の中でも身近なものとなりました。総務省の「通信利用動向調査」でも、平成十六年末におけるパソコンを保有している家庭の割合は八割近くに達しているとの結果が示されています。

今月は、地域の情報をホームページで発信したり、パソコンの操作を話題に交流を深める地域の取り組みをご紹介します。



ホームページを作り地域の情報を発信

清田中央地区では、平成十五年十月から町内会連合会のホームページを開設し、同会の活動や地域の出来事などをインターネット上で紹介しています。



▲清田中央地区のホームページ
http://www17.ocn.ne.jp/~kiyochu/

この地区の町内会連合会長の加賀谷正光さんが開設に向けて動き出したのは平成十四年九月ころ。パソコンの普及が進み新しい広報手段として地区のホームページ導入を思案していたところ「厚別区の町内会がホームページを公開したとの新聞記事を見て、

やってみようと思いました」と、そのきっかけを話します。地域住民に協力を呼び掛けた結果、趣旨に賛同した十四人でホームページ委員会を結成。ホームページ作成ソフトの使い方を学び、メンバー自ら苦労して完成させました。出来上がったホームページを見て安心する一方「より見

やすく工夫しなければ」と思いました」と当時を振り返るの



▲ホームページ開設の経緯を話してくださった加賀谷さん(左)と鈴木さん。

やってみようと思いました」と、そのきっかけを話します。地域住民に協力を呼び掛けた結果、趣旨に賛同した十四人でホームページ委員会を結成。ホームページ作成ソフトの使い方を学び、メンバー自ら苦労して完成させました。出来上がったホームページを見て安心する一方「より見やすく工夫しなければ」と思いました」と当時を振り返るの

は、同委員会会長の鈴木亨さん。早速、ほかの町内会のホームページを検索し、良いところは取り入れるなどメンバーとともに改善を加えてきました。同委員会の取り組みが広まったこともあり「最近

ほしいという依頼も増えているんですよ」と、鈴木さんは目を細めます。

開設から約二年以上たちますが、今でも十三人のメンバーがボランティアで、情報の更新作業や行事の様子を取材して掲載原稿を作成するなど、手分けして情報発信を続けています。

パソコンを話題に人々が交流

より充実したホームページを目指し、メンバー全員のさらなる技量の向上と新たな担い手が加わることを期待するお二人。いろいろな情報が集まりそれを発信することで、住み良いまちづくりにつなげようと、メンバーとともに活動は続きます。

パソコンを使い慣れた人も始めたばかりの人も気軽に集い交流を深められるのが「里美パソコン同好会」。毎月第一と第三水曜日の午前十時から午後二時まで、里塚・美しが丘まちづくりセンター横の同地区福祉のまち推進センターの部屋で行われています。



▲同好会世話役の相原さん(左)。話しが弾み、漬物の作り方にまで発展したこともあるそうです。

この会は、里塚・美しが丘地区の住民有志らで構成するまちづくり運営委員会「里美ふれあいクラブ」が定期的に開催するパソコン講座の参加者からの要望を受け、同クラブで始められたものです。会員としての登録や会費も

かからず、気が向いたときに参加できるのが特徴で、参加者は備え付けのパソコンを自由に操作し、分からないところはお互いが教え合ったりして知識と交流を深めます。同好会世話役の相原洋子さんは「パソコンを通じた人々の交流の場。『このホームページは便利』『あの店でパソコンを安く買った』といったパソコンにまつわる話題も皆さんが自由に話していますよ」と、楽しい同好会の様子を教えてくださいました。

※月により開催日などが変わる場合があります。日程は里塚・美しが丘まちづくりセンター☎884-1210まで。